



コミ・プラ
マスコットキャラクター
「ホッホ君」



公民館
Instagram

ふじみ町 公民館報

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1

コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館

Eメール: kouminkan@town.fujimi.lg.jp

No.741

令和7年7月1日

発行 富士見町公民館

編集 公民館報編集委員会

TEL 0266(62)7900

FAX 0266(62)7611

高森観音堂としだれ桜の古木



高原晴雨

今年の春に鳥の巣箱を作った。過去にも鳥やミツバチの巣箱を作ったことがあるが、一度も入ったことがなかった。きっと私には巣箱を提供するセンスがないのだと諦めていたので、庭のインテリアとして楽しく作り満足した。

巣箱を設置して2週間ほど経った頃、ぼーっと窓の外を眺めていたら、同じ鳥がずっとウロチョロしている。ヤマガラだ。作った巣箱の屋根に留まって忙しなく辺りを見ている。どこかに飛んで行つては戻り、近くの枝に留まったり、巣箱の屋根に乗ったりしているが中に入らない。

その後ヤマガラがどこかに行ったので、観察をやめて庭仕事を始めた。すると、先ほどのヤマガラと思われる鳥が現れ、私が移動すると後ろから付いてくる。近くも遠くもないところからこちらを観察しているようだ。試しに走って逃げても付いて来る。「不気味なヤマガラだな」と思いつつ、庭仕事を終えて家の中に入る。一休みしながら外を見ていると、またあのヤマガラが巣箱の近くに来て、今度は猛烈に鳴き始めた。その内に新しいヤマガラが一羽現れ、二羽でどこかへ行ってしまった。しばらくすると、ヤマガラが何かをくわえて戻ってきて、周囲を念入りに確認し巣箱の中に入った。その後も同じことを繰り返して、巣箱の中に何か運び入れている。よく見ると運んでいるヤマガラと巣箱の中に滞在しているヤマガラがいる。

嬉しさと共にヤマガラの家選びが立派で驚いた。物件の周囲の環境と大家の私を観察し、合格点に達したところで営業をかけ、見事にお嫁さんと呼び込んだのだろう。勝因は娘が巣箱の中にヒマワリの種を数粒仕込み、ご飯付き物件と見せかけたことだろうか。と考えているうちにふと、まるで私が一方的にヤマガラを観察している気だったが、ヤマガラもまたこちらを観察していたことに気が付いた。互いに近くも遠くもない距離で観察しあっていたのだ。観察するということとは、また同時に観察されることかもしれないと、巣箱という意識の共通点が生じる事で、観察の交差点を認識する出来事となった。

後藤 万輝

特集

信濃境駅 駅周辺を見る

中央東線信濃境駅は諏訪地域最南端の駅で、中央東線での「信州の玄関口」に位置しています。今は無人駅になっていますが、この駅ができるまでは周辺地域の皆さんの大変な苦勞がありました。

信濃境駅ができるまで

明治35年、鉄道の敷設工事が始まり、37年12月21日に中央線は富士見駅まで開通した。

当時の境村は小淵沢駅まで4・5km、富士見駅までは約5kmという地域であったことから、周辺の人びとには「新駅が欲しい」との要望が強かった。

大正8年から新駅設置の請願を重ねたが、なかなか許可は下りなかった。大正14年、池袋と高森両区は共同で「新駅設置期成同盟会」を発足してこの運動を強力に展開した。

翌年の15年3月には境村議会も「停車場の敷地並びに建設費の内元金四万円を鉄道省に寄附する」ことを決議して時の鉄道大臣に請願書を提出した。（請願の場合は、地元負担金や敷



開駅当時の様子（武藤盈氏撮影）

地を鉄道省へ寄附することが要件であった）

期成同盟会が開駅までに要した諸費用は総額で8万181円であり、境村は6千8百円、池袋・高森両区で6万3千2百円を負担。周辺集落や郷土出身者にも寄附を要請した。

共有林の伐採、個人への強制寄附（2円以上）、農工銀行からの借り入れなど、当時とすればかなりの負担を請け負うことになった。（当時の相場は1日の賃金が約80銭、米1升18銭という時代であった）。住民の負担金をどうするかと苦慮していたころ、富士見村（御射山神戸）出身の小川平吉氏が鉄道大臣に就任、実情を具申して地元負担金を3万円に減額することが決定さ

れた。

昭和3年11月3日、開設記念式典を行った。

なお、昭和34年には諏訪バスの運行も始まり、便利になった。

駅ができることになって、駅周辺には早速商店経営者や一般の居住者12人が転入してきた。昭和3年11月には駅前商工会が組織され、1戸あたり5円を納めて会員となった。当時の会員は14人であったが、7年後には61人となっていた。信濃境区では昭和6年に区内に桜の木200本を植樹し、区民総出払いにより公会堂を建設した。駅前道路は中央通り、西を白樺通り、東を朝日通りと名付けて商店街の発展を図った。昭和10年には境村直営診療所



現在の信濃境駅

も新設した。町史に記載されている昭和15年当時の駅前地図によると料亭、食堂、時計店、衣料品店、銭湯などが並び発展の様子が伺える。

駅の北方500mの所に湧水があり、そこから引かれた水は町内の各所に流れ、洗い物などに利用されている。



駅前にある高さ4mほどの「新駅記念碑」



駅周辺に流れる湧水

現在の境駅周辺

信濃境駅を下ると、左側に大きな建物がある。現在は公民館になっているが、かつては役場として利用された。井戸尻考古館ができるまでは、発掘された土器などもここで管理、展示されていた。



昭和 27 年落成の公民館



高森観音堂

高森公民館の北西側に茅葺の観音堂（愛宕山観音堂）があり、お堂の前には枝垂れ桜の古木がある。道路からは奥まっているため目立たないが、桜の時期になると観光客も多い。

この枝垂れ桜は、高さ約10m、幹回り4m、樹齢300年以上の古木で、昭和42年に町の天然記念物に指定されている。お堂の前には「高森弘法大師堂」と刻まれた石碑がある。



観音堂の中に並ぶ着色された弘法大師像

このお堂は明治6年から、高森と池袋が共同で「薬師堂高森学校」を開設し、学び舎にもなっていた。お堂の中には、八十八大師と呼ばれる木造に彩色された弘法大師像68体が並んでいる。

並んでいる。各地にある観音堂の大師像は1体だけ納められている場合が多い中、このお堂には写真のごとくひな壇のように大師像が納められているのに驚く。

このお堂は諏訪8カ所霊場の第1番札所に指定されている。（富士見町には若宮の観音堂、木之間の阿弥陀堂など15の霊場がある）

かつては高森の老人会で管理していたが、現在は善意で3人の方が維持管理を引き受けている。第2と第4の日曜日には鍵が開けられ、中を拝観することができる。玄関を入ると正面に石仏3体が鎮座しており、右側には常休和尚（文化4年）などの位牌が祀られている。目を引くのは正面の鴨居で、諏訪社の御神紋が掘られている。68体の大師像は左側の部屋にあり、目の前で拝むことができる。



鴨居に掘られた御神紋

あとがき

時々訪れる信濃境の地域ですが、駅舎の建物、井戸尻考古館、高森観音堂など気になる場所がいくつかあります。特に高森観音堂は桜も立派ですが、お堂の中に並んでいる大師像を拝観して、何とも言えない不思議な気持ちになったものです。貴重な建物や遺物をいかに残してゆくか、地域に任せるだけでは限界があると思いました。



観音堂正面と石仏

【参考文献】

信濃境区誌
諏訪八十八カ所霊場
富士見町史（下巻）
諏訪史蹟要項十五 富士見町境篇

富士見町図書館

☎62-7930

開館時間：通 常 … 午前9時30分～午後6時
火曜日 … 午前9時30分～午後7時
<https://www.town.fujimi.lg.jp/site/library1/>

おすすめ Book

★電話・WEB または
カウンターでご予約ください

小説 『奇のくに風土記』 木内 昇 著

紀州藩士の息子・十兵衛は、幼いころから草花とは自在に語ることができるのに、人とはうまく言葉を交わすことができずに育った。ある日、草花の採取に出かけた山中で天狗と出会ってから、面妖な出来事が身の回りで次々と起こり…。後の本草学者・畔田翠山の若かりし頃の、温かな交感と成長を描く感動の時代幻想譚。

7月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

■ 図書館・博物館…休館日

■ 図書館のみ…休館日（博物館は開館日）

■ 20冊貸出

富士見町図書館HP



7月26日(土)は富士見OKKOH祭りのため、16時閉館となります。

イベント情報

●7月15日(火)

夏の図書館まつり

時 間：午前11時～11時45分
会 場：コミュニティ・プラザ 2階 大会議室
申 込：不要
内 容：パネルシアター、大型絵本の読み聞かせ
わなげ、釣りゲーム

●8月5日(火)

夜のこわ～いおはなし会

時 間：午後7時15分～7時45分（閉館後）
場 所：図書館 おはなしのへや
定 員：20名（小学生以上：必ず保護者が送迎できる方）
申 込：電話又は図書館カウンターにて（7/15～）

●8月9日(土)

科学のとびら「木片を組み立てる自由工作」

時 間：午前10時～11時45分
場 所：コミュニティ・プラザ 2階 実習室
定 員：親子15組（お子さま15名）
※親子で制作します。
作品はお子さまおひとり1つです。
申 込：申込フォーム、電話又は
図書館カウンター（7/15～）



申込フォーム

☎ 富士見町図書館 ☎62-7930

博物館

（富士見町高原のミュージアム） ☎75-5735

旅の絵と絵日記「水の旅」

～若狭宣子水彩画・イラスト展～

7月20日(日) まで

長野県出身の水彩画家、若狭宣子さんの作品展です。水と水彩絵の具と共に旅をし、場所や時間、そして自身との繋がりを描いた八ヶ岳の風景と、海外での旅の絵日記を展示。その土地を訪れたような気分がゆっくりとお楽しみください。

次回予告 みやこしあきこ絵本原画展

「なにげないけど、いとおしい」

令和7年7月30日(水)～9月15日(月・祝)

富士見町在住の絵本作家みやこしあきこさんの原画作品を展示します。絵本の世界観をお楽しみください。

■ 場 所 富士見町高原のミュージアム（コミュニティ・プラザ2階）

■ 開館時間 午前10時～午後5時（入館午後4時30分まで）

■ 休 館 日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日） 祝日の翌日（土日祝の場合は開館）、12月28日～1月4日
※7/28(月)、8/4(月)、8/12(火)、8/18(月)は開館します。

■ 入 館 料 大人300円、子ども150円 諏訪地域の小中学生は無料

➡右上の招待券を切り取ってお持ちください。町内1家族まで無料にてご覧いただけます。

博物館 町制施行70周年記念企画

映画上映会 7月19日(土)

富士見がロケ地となった是枝監督映の映画「怪物」と高畑勲監督によりアニメ化された宮沢賢治原作「セロ弾きのゴーシュ」とチェロの生演奏のタイアップ上映会。

●怪物 上映開始 午前9時30分
●セロ弾きのゴーシュ 講演 午後1時30分
上映開始 午後2時30分
チェロ生演奏 午後3時40分

会 場：グリーンカルチャーセンター

定 員：各200名

申込期限：7月16日(水)

事前に申し込みが必要です



申込フォーム

博物館企画展
招待券